

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成30年9月13日 (2018.9.13)

【公表番号】特表2017-523207(P2017-523207A)

【公表日】平成29年8月17日 (2017.8.17)

【年通号数】公開・登録公報2017-031

【出願番号】特願2017-505609(P2017-505609)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/06 (2006.01)

A 6 1 K 31/5415 (2006.01)

A 6 1 K 31/404 (2006.01)

A 6 1 K 31/519 (2006.01)

A 6 1 K 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/06

A 6 1 K 31/5415

A 6 1 K 31/404

A 6 1 K 31/519

A 6 1 K 31/12

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成30年8月3日 (2018.8.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

B 細胞悪性腫瘍の治療におけるイブルチニブと抗癌剤を含む組み合わせの使用であって、ここで前記抗癌剤が、M A L T 1、M C L - 1、または I D H 1 を阻害する、使用。

【請求項 2】

イブルチニブ耐性の B 細胞悪性腫瘍の治療におけるイブルチニブと抗癌剤を含む組み合わせの使用であって、ここで前記抗癌剤が、M A L T 1、M C L - 1、または I D H 1 を阻害する、使用。

【請求項 3】

前記組み合わせが、前記イブルチニブまたは前記抗癌剤の単独の投与と比較して相乗作用的な治療効果を提供する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 4】

前記組み合わせが、B 細胞悪性腫瘍を前記イブルチニブに対して感作性にする、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 5】

前記抗癌剤が、M A L T 1 を阻害する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 6】

M A L T 1 を阻害する前記抗癌剤が、M I - 2、メパジン、チオリダジン、又はプロマジンを含む、請求項 5 に記載の使用。

【請求項 7】

前記抗癌剤が、M C L - 1 を阻害する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 8】

M C L - 1 を阻害する前記抗癌剤が、B I 9 7 C 1 0、B I 1 1 2 D 1、ゴシポール、オパトクラックス、M G - 1 3 2、M I M 1、サブトクラックス、又は T W - 3 7 を含む、請求項 7 に記載の使用。

【請求項 9】

前記抗癌剤が、I D H 1 を阻害する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 10】

I D H 1 を阻害する前記抗癌剤が、A G I - 5 1 9 8、A G - 1 2 0、I D H - C 2 2 7、又は M L 3 0 9 を含む、請求項 9 に記載の使用。

【請求項 11】

前記 B 細胞悪性腫瘍が、急性リンパ芽球性白血病 (A L L)、急性骨髄性白血病 (A M L)、慢性骨髄性白血病 (C M L)、急性単球性白血病 (A M o L)、慢性リンパ性白血病 (C L L)、小リンパ球性リンパ腫 (S L L)、高リスク小リンパ球性リンパ腫 (S L L)、濾胞性リンパ腫 (F L)、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (D L B C L)、マントル細胞リンパ腫 (M C L)、ヴァルデンストレームマクログロブリン血症、多発性骨髄腫、節外性辺縁帯 B 細胞リンパ腫、節性辺縁帯 B 細胞リンパ腫、バーキットリンパ腫、非バーキット高悪性度 B 細胞リンパ腫、原発性縦隔 B 細胞リンパ腫 (P M B L)、免疫芽球性大細胞リンパ腫、前駆 B リンパ芽球性リンパ腫、B 細胞前リンパ球性白血病、リンパ形質細胞リンパ腫、脾性辺縁帯リンパ腫、形質細胞性骨髄腫、形質細胞腫、縦隔 (胸腺) 大細胞型 B 細胞リンパ腫、血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫、原発性滲出性リンパ腫、またはリンパ腫様肉芽腫症である、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 12】

前記 B 細胞悪性腫瘍が、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (D L B C L) である、請求項 11 に記載の使用。

【請求項 13】

前記 D L B C L が、活性化された B 細胞びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (A B C - D L B C L) である、請求項 12 に記載の使用。

【請求項 14】

前記使用がさらに、第三の治療剤を投与することを包含する、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 15】

前記第三の治療剤が、化学療法剤または放射線治療剤の中から選択される、請求項 14 に記載の使用。

【請求項 16】

前記化学療法剤が、クロラムブシル、イホスファミド、ドキソルビシン、メサラジン、サリドマイド、レナリドミド、テムシロリムス、エベロリムス、フルダラビン、ホスタマチニブ、パクリタキセル、ドセタキセル、オフアツムマブ、リツキシマブ、デキサメタゾン、プレドニゾン、C A L - 1 0 1、イブリットモマブ、トシツモマブ、ボルテゾミブ、ペントスタチン、エンドスタチン、またはそれらの組み合わせの中から選択される、請求項 15 に記載の使用。

【請求項 17】

薬学的組み合わせであって：

a) イブルチニブと；

b) M A L T 1、M C L - 1、I D H 1、またはプロテアソームを阻害する抗癌剤と；

c) 薬学的に許容される賦形剤と、

を含む、薬学的組み合わせ。

【請求項 18】

B細胞悪性腫瘍の治療におけるイブルチニブとPIM阻害薬を含む組み合わせの使用。

【請求項19】

前記組み合わせが、前記イブルチニブまたは前記PIM阻害薬の単独の投与と比較して相乗作用的効果を提供する、請求項18に記載の使用。

【請求項20】

前記組み合わせが、前記B細胞悪性腫瘍を前記イブルチニブに対して感作性にする、請求項19に記載の使用。

【請求項21】

前記PIM阻害薬が、ミトキサントロン、SGI-1776、AZD1208、AZD1897、LGH447、JP__11646、Pim1阻害薬2、SKI-O-068、CX-6258、AR460770、AR00459339 (Array BioPharma Inc.)、miR-33a、Pim-1阻害性p27 (Kip1) ペプチド、LY333'531、K00135、ケルセタゲイン (quercetin) (3, 3', 4', 5, 6, 7-ヒドロキシフラボン)、またはLY294002を含む、請求項18に記載の使用。

【請求項22】

前記PIM阻害薬がAZD1208である、請求項18に記載の方法。